

6月26日 訂正

**1. 感染性胃腸炎**

小児科定点からの感染性胃腸炎の報告数は定点当たり11.3人と、前週とほぼ同程度で推移しています。

感染性胃腸炎のまん延を防止するため、福祉施設・保育園・学校などの集団生活の場では、手洗いの励行など、感染予防対策を徹底しましょう。

**2. インフルエンザ**

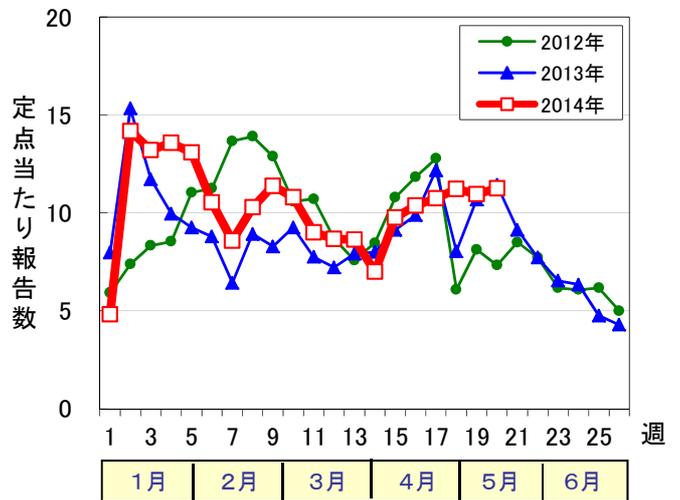
定点当たり報告数は0.73人と、ほぼ終息状態となっていますが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が第20週は1件、第21週は5月20日時点で1件、報告されています。

引き続き手洗い・うがいの励行など、感染症予防に注意しましょう。

**3. A型肝炎**

1件の報告があり、今年の累計は16件となりました。

感染性胃腸炎の流行状況(小児科定点)



**■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)**

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	急増減	増減	微増減	横ばい
												↑	↗	↘	→
小児科	インフルエンザ	27	0.73	0.61	↗	小児科	流行性耳下腺炎	22	0.92	0.70	↗	急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
	咽頭結膜熱	2	0.08	0.39			RSウイルス感染症	3	0.13	0.07		増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68	2.83	1.53	↗	眼科	急性出血性結膜炎	1	0.13	0.05		微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	感染性胃腸炎	270	11.25	7.93	↗		流行性角結膜炎	1	0.13	1.08		横ばい	→	ほとんど増減なし	
	水痘	22	0.92	1.43	↗	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。			
	手足口病	4	0.17	1.51			無菌性髄膜炎	-	-	0.08					
	伝染性紅斑	1	0.04	0.39			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.37					
	突発性発しん	17	0.71	0.48			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-					
	百日咳	-	-	0.20			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	1.00						
	ヘルパンギーナ	8	0.33	0.26											

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

**■ 全数把握感染症報告状況**

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	66	男性(30歳代)・1人、女性(40歳代)・1人、女性(50歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
4	A型肝炎	1	16	女性(60歳代)・市外
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	4	女性(70歳代)

## ■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第16週 第17週 第18週 第19週 第20週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎
			171	8	51	249	24	1	13	-	1	17	1	-	3	-	-	-	1	-	7	
		第17週	145	5	52	258	17	2	-	12	-	2	20	3	-	5	-	-	-	-	10	
		第18週	69	4	64	269	17	-	1	10	-	2	15	-	-	4	-	1	1	-	17	
		第19週	35	13	67	263	20	1	1	11	-	6	20	5	-	2	-	1	-	-	10	
		第20週	27	2	68	270	22	4	1	17	-	8	22	3	1	1	-	-	1	-	7	
定点当たり	広島市	第16週	4.62	0.33	2.13	10.38	1.00	0.04	-	0.54	-	0.04	0.71	0.04	-	0.38	-	-	0.14	-	1.00	
		第17週	3.92	0.21	2.17	10.75	0.71	0.08	-	0.50	-	0.08	0.83	0.13	-	0.63	-	-	-	-	1.43	
		第18週	1.86	0.17	2.67	11.21	0.71	-	0.04	0.42	-	0.08	0.63	-	-	0.50	-	0.14	0.14	-	2.43	
		第19週	0.95	0.54	2.79	10.96	0.83	0.04	0.04	0.46	-	0.25	0.83	0.21	-	0.25	-	0.14	-	-	1.43	
		第20週	0.73	0.08	2.83	11.25	0.92	0.17	0.04	0.71	-	0.33	0.92	0.13	0.13	0.13	-	-	0.14	-	1.00	
	全国	第18週	2.52	0.49	1.95	7.21	1.04	0.16	0.15	0.54	0.01	0.07	0.23	0.11	0.01	0.53	0.03	0.03	0.29	0.02	0.80	
		第19週	1.09	0.46	1.63	6.36	1.23	0.14	0.12	0.48	0.01	0.08	0.26	0.08	0.01	0.51	0.01	0.02	0.18	0.01	0.58	

## ■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

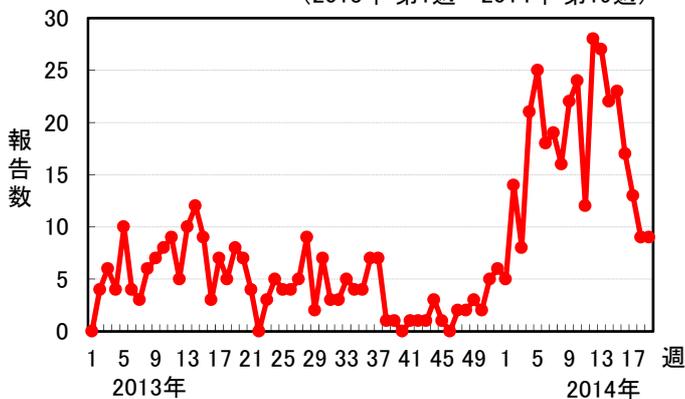
診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(38.7) 上気道炎	4	女	2014/03/27	咽頭拭い液	アデノウイルス1型
その他の呼吸器疾患	発熱 上気道炎 気管支炎 肺炎 肝機能障害 循環器障害 心不全 ショック症状	0	男	2014/04/04	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

## ★ 麻しん(はしか)が全国で増加しています!

### 全国の麻しん週別報告数

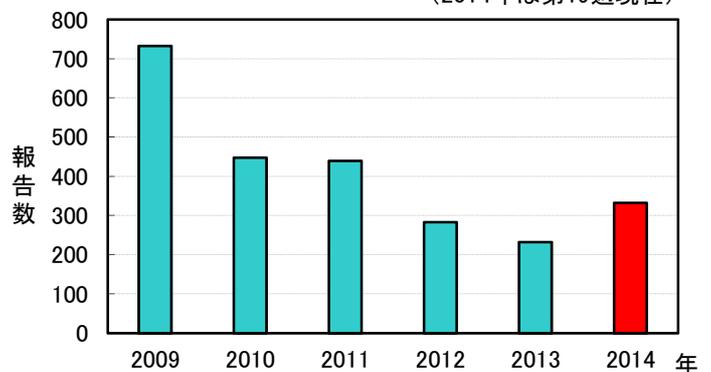
(2013年 第1週~2014年 第19週)



### 6月26日グラフ↓を訂正

### 全国の麻しん年間報告数の推移

(2014年は第19週現在)



全国の2014年の麻しん報告数は、第19週現在で332件となっており、昨年同時期の報告数(120件)を大幅に上回っています。また、広島市では、今年は第19週現在で1件報告されています。

麻しんは麻疹ウイルスによって起こる病気で、発熱と発しんが主な症状です。感染力は大変強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、また、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1000人に1人程度の割合で脳炎を発症すると言われています。

麻しんには特效薬はなく、感染を予防するには予防接種が最も効果的です。定期予防接種(無料)の接種対象年齢になったら、早めに予防接種を受けましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

#### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第20週(5月12日~5月18日)